

中筋川流域にマナヅル飛来 ～人工湿地に初飛来～

(四万十川自然再生事業・ツルの里づくり事業(中山箇所))

平成25年12月12日(木) NHK ニュース状況

NHK 総合 4時35分(全国版)(1分30秒)

NHK 総合 6時25分(四国版)(〃)

NHK 総合 6時45分(全国版)(〃)

NHK 総合 6時54分(四国版)(〃)

NHK 総合 7時47分(四国版)(〃)

NHK 総合 12時18分(高知版)(〃)

H25.12.12(木) 4時35分 6時45分 NHK ニュース(全国版) 内容

高知県四万十市の人工的に整備した湿地にこの冬、マナヅル2羽が初めて、飛来し、えさをついばむ姿などを見せています。マナヅルが飛来したのは、高知県四万十市を流れる中筋川の近くに整備された人工の湿地です。越冬地を分散することで、鳥インフルエンザなどの感染症の広がりを防ごうと、国土交通省が10年前から整備を進めてきました。

先月中旬からつがいとみられるマナヅル2羽が姿を見せ、日中、湿地で過ごしたり、近くにある稲刈りが終わった田んぼで、えさの昆虫やミミズなどをついばんだりしています。

湿地には、ツルを呼び寄せるために、実物大のツルの模型が置かれているほか、地元の人たちも稲の穂を残したえさ場や、ツルの寝床になる水場を作りました。

マナヅルは、冬の間、シベリア方面から飛来し、鹿児島県の出水平野が国内最大の越冬地と知られ、四万十市の人工の湿地で飛来が確認されたのは、今回が初めてです。マナヅルは翌年の2月中旬頃に北へ帰って行くということで、地元の人達はマナヅルの初めての越冬となるか、見守りを続けることにしています。

